

教会学校 教案ガイド

教師メモやメッセージアウトラインを読む前に必ずディボーションをしましょう。

1. みことば

祈りながら今週のテキスト(聖書箇所)を何度も繰り返し読んでください。また、今週の暗唱聖句を決定して、覚えましょう。

2. 主題の読み取り

今週のみことばの中心テーマを自分のコトバで、1つの文章にまとめて書きあらわしましょう。

例 ○: イエスさまは、弟子たちがイエスさまを救い主と信じるようにカナで奇跡を行いました。(×: カナの婚礼と奇跡)

3. 教えられたこと

今週のみことばを通して、神さまがあなたに語ってくださったことを書きあらわしましょう。

4. メッセージの作成

◇「教師ノート」と「メッセージアウトライン」を参考にしてください。

◇注意深く聖霊さまの導きに従いましょう。

教会教育部公式サイト <http://ce.ag-j.or.jp/>

教会の働きのためにご自由にお使いください。営利目的での使用は禁じます。すべての内容の著作権は、日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団教会教育部にあります。

教師ノート

日付	2012年 4月29日
単元	ペンテコステ
テーマ	内住され共にいてくださる聖霊
タイトル	いつも一緒(共にいてくださる聖霊)
テキスト	ヨハネ 14:16-17、14:26、15:26、16:7-8、16:13-15、Iコリント 6:19、12:3
参照箇所	暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい) Iコリント 6:19
AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)	小学下級1巻一主題3-8課「聖霊を受けたペテロ」 中学2巻一主題4-5課「聞くべき声」
□導入	あなたは一人ぼっちだなと感じたことはありますか？どんな気持ちでしたか？イエス様はわたしたちが一人ぼっちにならないで、神様に従っていくことを助けることができるように聖霊を遣わすと約束して下さいました。聖霊とは一体どういうお方なのでしょう？
□ポイント1 イエスさまは助け主である聖霊を遣わすと約束して下さいました	イエス様は十字架にかかれる前、最後の晩餐の席で弟子たちに自分が去っていかれること、そして代わりに天の父なる神様をお願いしてもう一人の助け主として聖霊が遣わされることをお話しになりました。イエス様がよみがえって天に戻られたあと、ペンテコステの日に弟子たちの上に聖霊が降りました。そして、聖霊がイエス様の働きを引き継がれ、弟子たちと共に、弟子たちを通して全世界的規模の福音宣教時代が始まったのです。聖霊は「神の霊」とも「イエスの御霊」とも言われているように、神様の霊であり、神様ご自身です。聖霊が働かれると私たちの内にある罪を教えてください。そしてイエス様を信じるようにと導いてくださいます。私たちは聖霊によらなければ自分の内にある罪がわからず、イエス様を神の子救い主であると認めることはできないのです。
☞	聖霊は三位一体の神様の第三人格の神様です。詳しくは2008年9月28日「神について-三位一体の神様」を参照してください。
□ポイント2 聖霊はイエス様を信じる人の内に住んでくださいます	イエス様を自分の罪からの救い主として信じる人の心には聖霊が住んでくださいます。聖霊はイエス様を信じるすべての人の内に住んでくださっているのです。イエス様を信じてからお祈りや賛美が心から捧げられるようになったと感じる人もいます。聖書を読むのが楽しくなったという人もいます。また、今まで何とも思わなかった罪の行いに対して罪悪感を覚えるようになったということもあるかもしれません。それは聖霊があなたの内に住んでくださり働いておられるからです。また、感覚的に何も感じない時もあるかもしれません。それは聖霊がどこかに行ってしまったのではありません。聖霊は確かに信じる者の内に住んでおられるのです。あなたが独りぼっちになることはもうないのです。しかし、時に私たちはイエス様を信じた後も神様中心の生活ではなく自分中心の生活をしてしまうことがあります。そのような時は聖霊の語りかけが聞こえにくくなることもあります。今のあなたはどうですか？(※教師の実際の経験などを話すといいでしょう)聖霊はあなたの内に住まわれ、あなたの人生を神様のすばらしい祝福に満ちたものへと導きたいと願っておられます。罪の奴隷であった私たちを、神様はイエス様の尊い十字架の血潮という代価を払って買い取ってくださり私たちの内にご自身の霊である聖霊を住まわせて

くださいました。ですから、もはや私たちのからだは神様のものであって自分自身のものではありません。もう罪の奴隷ではないのです。聖霊の声をいつも聞きながらその導きに従っていく者なのです。

□ポイント3 聖霊はイエス様を信じる人といつも共にいて助け導いてくださいます

聖霊はいつでも、どこにいてもイエス様を信じる人々と共にいてくださいます。どこか特別な場所に行かなければ神様に会えないのではありません。あなたがどこにいても、どんな状態でも神様を呼び求めるなら聖霊はあなたにこたえてくださるのです。そして、みことばや祈りの中で私たちに慰め、励まし、正しい方向へと導き、時には間違いを教えてくださいます。(※教師の実際の経験を話すとよいでしょう)そうして私たちは聖霊の働きの中で少しずつイエス様に似た者へと造り変えられていくのです。聖霊に導かれて私たちの考え方や言葉、行動、態度がイエス様のように変えられていく時、また聖霊に力を与えられて情熱をもって福音を伝えていく時、それは私たちを通してまるでイエス様が現代に生きておられるかのようにしてイエス様を証していくことができるのです。こうして、聖霊は私たちを通してイエス様をこの世に証しされるのです。

□結論 イエス様を信じる人々の内には聖霊が共に住んでいてくださいます

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

イエス様はよみがえられて天におられる父なる神様の元に戻られましたが、代わりに助け主として聖霊が遣わされました。現代は目には見えない聖霊が信じるすべての人々と共にいてイエス様がこの地上でなされたと同じように働いておられるのです。あなたは自分が一人ぼっちだと思ったことはありませんか？イエス様を信じるなら、あなたの内にはすでに聖霊が住んでいてくださっています。そして聖霊はあなたを助け導き、あなたを通してイエス様を証しするために遣わされているお方なのです。内住しておられる聖霊を感謝し、聖霊を信頼しませんか？聖霊の声に耳を傾けていきましょう。そして聖霊の導きに従う者になりましょう。

教師ノート

日付	2012年 5月 6日
単元	ペンテコステ
テーマ	キリストの証人となる力
タイトル	えっ、あの人が(サウロの回心)
テキスト	使徒の働き9:1-22
参照箇所	暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい) 使徒の働き1:8
AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)	小学上級3巻-主題1-課4「キリストに会った証人」 小学下級2巻-主題4-課2「サウロの回心」 中学3巻-主題1-課2「すばらしき転換」
□導入	あなたは久しぶりに友達に会って相手がずいぶん変わったなと感じたことはありませんか？あなたはどのようにしてイエス様に会いましたか？また、イエス様に会って自分が変わったと思うところはありませんか？
□ポイント1 サウロはよみがえったイエス様にお会いしました	<p>サウロという人がいました。サウロは旧約聖書の神様を信じモーセの律法を大切にしていた人でしたが、イエス様が神様の子であり救い主であるということは信じていませんでした。むしろ、自分を神の子だと言いモーセの律法を大切にしないとんでもない人間だと思って憎んでいたのです。だから、そのイエスを信じているという人のことも同じように憎んでいました。イエスを信じている人を見つけたら捕まえては牢屋に入れ、時には殺してしまうこともあったのです。</p> <p>そんなある日、サウロはイエス様を信じる人々を捕まえようとダマスコという町に向かっていた。すると、突然天から眩しい光がサウロを照らしたので、サウロは地面に倒れてしまいました。すると天から声が聞こえたのです「サウロ、サウロ。どうしてわたしを迫害するのですか？」「あなたは一体どなたですか？」「わたしはあなたが迫害しているイエスです。さあ立ち上がって街に入りなさい。そうしたらあなたがしなければならないことがわかります。」</p> <p>サウロは立ち上がりましたが目が見えなくなっていました。一緒にいた人々も声は聞こえても何も見えないので呆然と立ち尽くしていました。人々はサウロの手を引いて町に入りました。サウロは三日の間目が見えず、また食事もしませんでした。</p>
☞「サウロ」…キリキヤのタルソ出身のユダヤ人で回心してからはパウロと呼ばれた。熱心なパリサイ人で学歴も高くクリスチャンを迫害したが、ダマスコ途上にて復活のキリストに会い回心。使徒として主に異邦人伝道に従事した。ローマで殉教したといわれる。新約聖書には彼の執筆した13の書簡が含まれている。	
☞「この道の者」(2)…キリスト者のこと	
☞「飲み食いもしなかった」(9)…悔い改めと待機を表わしている。断食。	

□ポイント2 神様はサウロが聖霊に満たされるためにアナニヤを遣わされました

さて、ダマスコにはアナニヤという熱心で評判の良いイエス様の弟子がいました。神様は幻の中でアナニヤを呼ばれました。「アナニヤよ」「神様、ここにおります」「『まっすぐ』という道に出てサウロという人を尋ねなさい。彼は祈っています。アナニヤという人が来て自分に手を置くと目が再び見えるようになることを幻で見たのです」でもアナニヤは恐れしました。サウロが今までイエス様の弟子たちにどんなことをしてきたかよく知っていたのです。しかし、神様は言われました。「行きなさい。あの人はわたしが異邦人に私のことを伝えるために選んだ器なのです」。

アナニヤは神様に言われたとおりに出かけて行きました。そしてサウロを尋ねだすと手を置いて「サウロさん、道の途中で現れたイエス様がわたしを遣わされました。あなたが再び見えるようになり聖霊に満たされるためです」するとただちに、サウロの目からウロコのようなものが落ちて目が見えるようになったのです。そしてサウロは立ち上がるとイエス様を救い主として信じバプテスマを受け、食事をして元気になったのです。

☞「目からうろこ」(18)…所謂「目からうろこ」という慣用表現はここから

□ポイント3 サウロは力強くイエス様は救い主であることを証しするようになり変りました

アナニヤにお祈りしてもらってイエス様を信じ聖霊に満たされたサウロは、まるで人が変わったように今度は迫害していたイエス様を「イエス様は救い主です！ イエス様は神の子です！」と大胆に人々に宣べ伝え始めたのです。驚いたのは周りの人々です。「あれはイエスの弟子を迫害していたサウロじゃないのか？ いったいどうしたんだ！？」けれども、聖霊に満たされたサウロはますます力強くイエス様こそ救い主キリストであることを証ししていったのです。

□結論 聖霊は人を造り変えキリストの証人となる力を与えてくださるお方です

聖霊に満たされたサウロは全く変えられてしまいました。実は、このことはイエス様が天に帰られる前にお弟子さんたちに約束されていたことです。「聖霊が降る時あなた方は力をうけて私のことを証詞する証人になります」(使徒の働き 1:8) こうして、聖霊に満たされるとキリストを証していく力(デユナミス) (22) が与えられキリストを証明する(証詞する)証人に変えられていくのです。

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

1. 聖霊は私たちがイエス様に従い、イエス様を力強く証していく力と勇気を与えてくださいます。サウロのようにイエス様に従い、イエス様のことを力強く証していく力を神様に求めて祈りましょう。あなたも変わることができます。
2. サウロはイエス様を迫害していましたがイエス様に会い聖霊に満たされてイエス様が大好きな人に変えられました。あなたの周りにイエス様のことを信じない人や嫌っている人はいませんか？ 神様はその人を造り変えることができると信じてイエス様を証ししませんか？
3. サウロが聖霊に満たされるために神様はアナニヤを遣わされました。あなたも聖霊の満たしを求めて誰かに一緒に祈ってもらいませんか？ また、あなたが一緒に祈ってあげられる人はいませんか？

教 師 ノ ー ト

日付	2012年 5月13日
単元	ペンテコステ
テーマ	行くべき道に導いてくださる聖霊
タイトル	聖なるナビゲーション(ピリピにて)
テキスト	使徒の働き 16:1-15
参照箇所	暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい) Iコリント 2:11 or ヨハネ 16:13
AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)	小学下級2巻一主題4ー5課「パウロとテモテ」 中学3巻一主題1ー7課「真夜中の賛美」
□導入	<p>あなたは迷子になったことはありますか？迷子になると本当に大変ですね。最近の自動車や携帯電話には目的地まで導いてくれるナビゲーションがついているものが多くなりました。私たちの人生も迷子になったら大変です。毎日私たちと一緒にいてくれて幸せな人生へと歩むべき道を導いてくれるナビゲーションがあったら欲しいと思いませんか？</p>
□ポイント1 パウロはアジアでみことばを語る予定にしていました	<p>イエス様を信じたパウロは大胆にイエス様は救い主であることを人々に伝えました。特に神様はパウロを異邦人(ユダヤ人以外の人々)に福音を伝える役割を与えてくださいました(参照:使徒 9:15、13:2)。多くのユダヤの人たちは自分たちこそ神様に選ばれた特別な民で、自分たち以外の人々には神様の祝福はないと考えていたのです。しかし、神様のお考えは違いました。神様はまずユダヤ人から始まってすべての国の人々にイエス様の素晴らしい救いの知らせを伝えたいと願っておられました。そこでパウロをその特別な任務のために用いてくださったのです。</p> <p>パウロは異邦人の人たちにも福音を伝えるために全三回の伝道旅行をしました。今回はその二回目の時の出来事です。パウロはいつものように他のお弟子さんたちと一緒に出かけました。今回はまずアジアの地方でイエス様のことを伝えようと考えていました。</p>
□ポイント2 聖霊はパウロたちを予定とは違うマケドニアへと導きました	<p>ところが聖霊がパウロの内に「アジアでみことばを語ってはいけない」と言われました。理由はわかりませんが聖霊の導きに従うことにしました。そこでパウロたちは進路を北に変えてフルギヤ・ガラテヤの地方を通り、さらにムシヤ、ビテニヤと進もうとした時、再び聖霊はパウロに「そちらの方向ではない」と語られたのです。いったいどうしたことでしょう。しかし、パウロは聖霊に導かれるままにムシヤを通りトロアスに下ることにしたのです。</p> <p>そんなある夜、パウロは幻を見ました。一人のマケドニア人がパウロの前に立って「どうかマケドニアに渡ってきて私たちを助けてください」と熱心をお願いしている幻でした。パウロはこれは神様からの導きに違いないと、すぐにマケドニアに向かいました。今まで自分たちの思いとは違うところに聖霊が導いておられたのはまさにこのためだったことがわかったのです。</p>
☞	<p>アジア、フルギヤ、ムシヤ、トロアス、マケドニアなどいくつかの地名が出てくるが聖書の巻末地図などを参照して生徒と一緒に位置を確認することで聖書の話がよりリアリティのあるものになるでしょう。伝道旅行の地図を作成するのも一つです。</p>

☞「聖霊に導かれる」「聖霊の声を聞く」という表現が具体的に生徒に分かるように教師が体験した聖霊に導かれる体験を話すといよいでしょう。物理的に耳に聞こえてくるのではなく、心に聞こえる声、みことばや祈りの中で行くべき道、なすべきことが教えられたことなどを証しましょう。神様は様々な方法で私たちにみこころを伝えられるお方です。かつては預言者や天使、幻を通して語られましたが、今は内に住む聖霊を通し、みことばによって私たちの心に語られることが基本です。

□ポイント3 マケドニヤの街ピリピでルデヤと出会いその家族が救われました

パウロはトロアスから船に乗りマケドニヤの地方都市であるピリピに滞在しました。そして安息日になると祈り場がある川岸に出て行ってそこに座って集まってくる女性たちにイエス様のことを話しました。するとその中にテアテラという町から来ていたルデヤという女性がいました。ルデヤは紫布を売る商人で神様のことに理解のある女性でした。彼女はパウロの話に熱心に聞いていました。そして神様はルデヤの心を開いてパウロの話に心を留めるようにされたのです。ルデヤはパウロの話すイエス様を信じました。そしてバプテスマを受け、彼女の家族もイエス様を信じバプテスマを受けました。そしてパウロたちを自分の家に招いたのです。神様が聖霊によってマケドニヤにパウロを導いたのはまさにこのためだったのですね。

☞「祈り場」…ピリピにはまだユダヤ人の会堂がなかったのではないかとされている。そこでパウロはユダヤ人の非公式の集会場である祈り場を探したのである。パウロは異邦人伝道を志していたが、彼の願いはまず同胞のユダヤ人が救われることであつた(参照:ローマ11章)。そこで外国の地に行った時はまずユダヤ人の集会場を探し、そこを拠点として宣教活動を行った

☞「紫布商人」…小アジアにあるテアテラは紫布の染料で有名だった。当時紫布は非常に高価なものであつたのでルデヤは裕福な人であつたといわれている。ピリピの家の教会の拠点となるにふさわしい人物を神様は備えておられたのである。ちなみに、元来紫布は地中海のアッキ貝からとれる微量の色素を集めて染料とし染めた布で非常に高価なものであつた。聖書中でもこれを用いた人は王や高官(雅3:10, ダニ5:7)、金持(ルカ16:19)がほとんどである。彼女が扱った紫布は、彼女の町テアテラで生産されるもので、この地方でとれるあかね草の根からとった染料で染めたものと考えられる。

□結論 聖霊は私たちが進むべき道を示し導いてくださるお方です

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

聖霊はパウロが行くべき道を確かに示して下さり導いてくださいました。聖霊の導きに従った時に、パウロは救われるべき魂に出会うことができたのです。あなたはいつも聖霊の声を聞いていますか？聖霊の導きに従っていますか？聖霊は聖書のみことばを土台として、祈りの中や人からのアドバイス、環境などを通してあなたを正しい方向へ導いてくださるお方です。行くべき道がわからず迷っていることはありませんか？不安なことはありませんか？祈りとみことばの中で聖霊の声に耳を傾けましょう。示されたことを牧師先生や先生に相談してみるとよいでしょう。

教 師 ノ ー ト

日付	2012年 5月20日
単元	ペンテコステ
テーマ	人間の限界を超える力を与える聖霊
タイトル	聖霊の愛は国境を越えて(異邦人コルネリオの救い)
テキスト	使徒の働き 10:1-48
参照箇所	暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい) ルカ 18:27 or ガラテヤ 5:22-23
AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)	小学下級1巻－主題3－12課「福音を受け入れたコルネリオ」 中学科2巻－主題4－2課「神のみ心を知る」 幼稚科1巻－主題1－8課「コルネリオに教師を与える神様」
□導入	<p>走るの好きですか？陸上の世界では長い間100mを9秒台で走るの理論的に無理だと考えられていたそうです。そして実際にそのような記録は出ませんでした。しかしそのような考えを気にせず「できる」と信じる男が現れました。そして彼は本当に9秒台の記録を出したのです。さらに興味深いことは、その後続々と9秒台をマークする選手が現れたということです。「できない」と決めつけていることはありませんか？神様はあなたが思う以上に偉大なお方です。神様にできないことはありません。</p>
□ポイント1 神様は異邦人コルネリオに幻の中で語られました	<p>カイザリヤという港町にコルネリオという人がいました。コルネリオはローマの兵隊の百人隊長をしている人でした。コルネリオはユダヤ人が差別をしていた異邦人でしたが、ユダヤ人の信じている神様のことをよく理解していて、自分も神様を受け入れ敬っていました。そして、ユダヤ人と同じようにたくさんの施しをし、いつも神様にお祈りをしていました。</p> <p>そんなある日午後三時ごろコルネリオがいつものようにお祈りしていると、幻の中で神様のみ使いをみたのです。天使はコルネリオに言いました「コルネリオよ。」「はい、なんでしょうか」「あなたのお祈りと神様のための良い働きは神様にきちんと覚えられています。さあ、今ヨッパというところに人を遣わしてシモンという人を招きなさい。この人はペテロとも呼ばれています。この人は皮なめしのシモンという人の家に泊まっていますが、その家は海辺にあります」そこで、コルネリオはみ使いに言われたとおりに、しもべたちにこのことを話してから彼らをヨッパに送り出しました。</p>
☞「カイザリヤ」…地中海に面した交通要所の重要な港。ローマから派遣された総督が駐在した。	
☞「百人隊長」…百人の兵士を統率している隊長。下士官に相当する。	
☞「敬虔な人」…異邦人がユダヤ教徒になるためにはユダヤ教教理を受け入れること、宗教的慣習を守ること、男子は割礼を受けることが必要であった。しかし、割礼を受けることは異邦人には抵抗があり、他の点ではユダヤ教を受け入れながら、割礼を受けていない異邦人がいた。このような異邦人をユダヤ教の観点から「敬虔な人」と呼んだ。当時離散するユダヤ人(ディアスポラ)社会はこのような賛同者を多く得ていたようである。	
☞「午後三時」…ユダヤ教徒の夕方祈りの時。(参照:使徒3:8)	
☞「皮なめし」…動物の死体に触れるので汚れた職業とされていた。キリストの弟子ペテロがこのような人の家に泊まっていたということは、彼がユダヤの社会的偏見や習慣に拘束されていないことを表しているといえる。	

□ポイント2 神様はペテロにも幻の中で語られました

翌日、コルネリオからの使者が町の近くまでやって来た昼の12時頃、ペテロは祈るために屋上に上りました。すると、ペテロはとてもお腹が空いて食事をしたくなりました。そして食事の用意がされている間にうっとり夢心地になったのです。すると、幻の中で天から大きな大きな布の様な入れ物に入れられてたくさんの動物、地を這う生き物、空の鳥が降りてきたのです。

ペテロはびっくりしました。すると、天から声が聞こえてきました「ペテロよ。さあ、これらのものをほふって食べなさい」「神様、それはできません。私はまだ一度も律法できよくないとされた物や汚れた物を食べたことはありません」すると再び天から声がありました。「神様がきよめた物をきよくないと言ってはいけません」そして、同じようなことが三度あってから入れ物はすぐに天に引き上げられていったのです。

- ☞「きよくない物や汚れた物」…旧約の律法にはある種の動物は汚れているので食べてはならないという規定がある。それは宗教的な意味においてはあがあるが、ユダヤ人は決して汚れた物を食べることはなかった。しかし、イエス・キリストはどんな食物も人を汚すことはできないと言われた(マルコ7:18,19)。食物の規定は旧約時代のものであり、キリストの贖いにより新約時代には汚れた物も神によってきよめられたのである。このことは食物の規定ばかりではなく、民族的、人種的にも適用される。それがこの幻の示すところである。

□ポイント3 聖霊はペテロを異邦人コルネリオのところへ遣わされました

ペテロが今見た幻の意味は一体何だろうと思ひめぐらしていると、聖霊がペテロに語られました。「見なさい、三人の人があなたを訪ねてきています。ためらうことなく一緒に行きなさい。わたしが彼らを遣わしたのです。」そして、コルネリオの使いたちはペテロに事の次第を話しました。そしてペテロは彼らと一緒にカイザリヤに同行しコルネリオと出会ったのです。そこには家族や親しい友人たちもいました。ペテロはコルネリオから話を聞くとこれは神様から出たことであることがはっきりとわかりました。そしてコルネリオとそこにいた人々の前で言いました。「私は今はっきりとわかりました。神様はユダヤ人も異邦人もなく、どこの国の人であってもどんな人であっても、神様を信じる人を受け入れてくださるのです。十字架にかかれ、三日目によみがえられたイエス様こそ私たちの罪からの救い主です」ペテロは大胆にイエス様を証しました。

すると、ペテロがまだ話しているうちにみ言葉を聞いていたすべての人の上に聖霊が臨まれました。ペテロと一緒にきた弟子たちも驚きました。異邦人の上にも聖霊が臨まれ彼らが異言を話し、神様を賛美するのを聞いたからです。そしてコルネリオもそこにいた人々もみなイエス様を信じるバプテスマを受けたのでした。

□結論 聖霊は人の考えや限界を超える力を持っておられるお方です

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

1. 聖霊はペテロを通して異邦人であったコルネリオにも神様の福音を伝えるように導かれました。ユダヤ人は異邦人は神様の祝福を受けることはできないと考えていましたが、聖霊によってユダヤ人と異邦人との間にあった厚い壁は取り除かれました。こうして福音はエルサレムから始まり、ユダヤ、サマリヤの全土、さらに地の果てまで聖霊の力によって大きく広まっていきました。あなたは人の考えで無理だろうと限界をつくっていることはありませんか？神様の力は無限大です！
2. 愛せない人、この人とはうまくできないと自分で壁を造ってしまっている人はいませんか？決して超えることはないと思われたユダヤ人と異邦人の壁は聖霊の力によって打ち破られました。聖霊による愛の力をいただきたいと思いませんか？愛は聖霊が結ばせる実です。聖霊の力と導きを祈り求めませんか？

教 師 ノ ー ト

日付	2012年 5月27日
単元	ペンテコステ
テーマ	異言のしるしを伴う聖霊のバプテスマ
タイトル	聖霊のバプテスマ(ペンテコステの日の出来事)
テキスト	使徒の働き 1:4-5、1:8、1:12-14、2:1-47
参照箇所	使徒の働き 4:31、8:14-24、10:44-48、19:6
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	ルカ 11:13 or ヨエル 2:28

AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)

[小学下級2巻-主題4-13課](#)、[小学上級3巻-主題1-2課](#)、[中学1巻-主題2-4課](#)、[中学3巻-主題2-6課](#)

□導入

あなたの誕生日はいつですか？今日はペンテコステの日です。ペンテコステとはユダヤの収穫をお祝いするお祭りの一つですが、神様はこの日に聖霊を弟子たちにお与えになりました。聖霊に満たされたペテロたちはイエス様を力強く証しし、3000人が救われて最初の教会が誕生したのです(魂の収穫の始まりですね！)。ペンテコステの日に何が起こったのか見てみましょう。

□ポイント1 イエス様は弟子たちに聖霊のバプテスマを約束されました

イエス様は天に戻られる前に弟子たちを集めて約束してくださいました。「あなたがたはエルサレムを離れないで天におられる神様の約束を待ちなさい。あなたがたはもう間もなく聖霊によってバプテスマを受けます。」バプテスマとは「浸される」という意味です。ですから聖霊のバプテスマを受けるとは聖霊によって浸される、つまり聖霊によっていっぱいになる、満たされるということなのです。さらにイエス様は言われました「聖霊に満たされるとき、あなたがたは大きな神様の力を受けます。それによって、エルサレムからユダヤ、サマリアの全地方、そして地の果てまで私のことを証しする証人になります。」聖霊に満たされると、その人は世界中にイエス様のことを証していく力、イエス様のことを伝えたいという熱い思い、熱心が与えられるのです。実は、弟子たちはイエス様がいなくなることをとても悲しみ、不安でいっぱいでした。イエス様が十字架にかかれた時もみんな逃げてしまいました。イエス様がお墓に葬られたあとはみんなで家に閉じこもってかぎを掛けて小さくなっていました。「これからどうしたらいいんだろう。どうやってイエス様のことを伝えていけばいいんだろう」そんな弟子たちにイエス様は素晴らしい聖霊の希望の約束を与えてくださったのです。

□ポイント2 弟子たちは約束を信じて心を合わせて熱心に祈り求めました

イエス様が天に昇られると、弟子たちはさっそくイエス様に命じられたとおりのエルサレムに帰りました。弟子たちにとってはイエス様を迫害して十字架に付けた人々が沢山いるエルサレムに戻るということは勇気が必要だったことでしょう。でも弟子たちはイエス様が命じられたことに従ってエルサレムにとどまったのです。そして泊まっていた家の屋上に上がってみんなで心を合わせてお祈りを始めました。そこにはイエス様の弟子たちをはじめ、イエス様に従ってきた女の人たちやイエス様のお母さんのマリヤ、またイエス様の兄弟たちもいました。みんなイエス様を信じて従ってきた人たちです。集まった人たちはただひたすらイエス様の約束を信じて心を合わせて祈り続けました。聖霊の約束を求め続けたのです。だれも、聖霊がどのようなものかわかりません。聖霊に満たされるということがどのようなことなのかもわかりません。また、それがいつどのような形で与えられるかもわかりませんでした。でも彼らはただ約束を握って、信じて、心を合わせて祈り求め続けたのです。

□ポイント3 ペンテコステの日に約束通り弟子たちは聖霊に満たされ変えられました

そして10日が過ぎました。五旬節(ごじゅんせつ・ペンテコステ)というユダヤ人の祭りの日になりました。穀物の収穫祭の日です。弟子たちは皆同じ所に集まっていた。すると、突然天から激しい風が吹いてくるような響きが起こりました。そしてそれは彼らがいる家全体に響き渡りました。そして、天から炎のような分かれた舌のようなものが現われて、そこにいたすべての人の上にとどまったのです。するとどうでしょう、そこにいた人がみんな聖霊に満たされて聖霊の導かれるままに自分の知らない外国の言葉(異言)で突然話し出したのです。

驚いたのは物音を聞いて集まって来た人たちです。そこには多くの外国から集まって来た人々がいました。「これはいったいどうしたことか!？」自分の国の言葉で神様のことを話している彼らの姿にびっくりしてしまいました。ある人はお酒に酔っているのではないかといってあざける人もいました。

そこで、ペテロがほかの11人の弟子たちと一緒に立ちあがって言いました。「みなさん、聞いてください。今は朝の9時ですから私たちはお酒に酔っているではありません。これは預言者ヨエルがかつて預言したことが実際に起こったのです。終わりの日に神様はイエス様を信じるすべての人にご自身の霊である聖霊を与えてくださるのです。あなた方が十字架にかけたイエス様こそ私たちを罪から救う救い主です！」ペテロは集まって来た人々にイエス様を大胆に証しました。イエス様が十字架にかかる時に怖くなって三回もイエス様を否定したペテロとはまるで人が変わってしまったようです。聖霊に満たされた時にペテロは力が与えられイエス様を大胆に証する証人に造りかえられたのです。そしてその日、ペテロのメッセージを聞いてイエス様を信じた人が3000人もいました。こうして最初の教会が誕生したのです。教会は聖霊によって生み出されました。そして最初の教会はペンテコステの教会だったのです。

⑤「五旬節」…別名ペンテコステ。ユダヤの祭りのひとつ。過ぎ越しの祭りから50日目であることから五旬節と呼ばれた。もともと大麦の収穫を祝う収穫祭であった。この日に聖霊が下ることによって世界規模による魂の収穫が始まったことを象徴的に示している。

⑥「他国のことば」…異言の一つ。話しているものはわからないが、聞いているものの中には理解できる者がいる言葉。異言には聞くものが理解し解き明かせるものとそうでないものがある。また、異言には聖霊に満たされたしるしとしての異言と、聖霊の賜物による用法の異なる二つの異言があるが、ここでは前者である。

□結論 聖霊は人の考えや限界を超える力を持っておられるお方です

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

イエス様は求める者を聖霊で満たしてくださると約束して下さっています。聖霊に満たされる時、私たちの内から湧き上がる神様に従いたい、神様を証したいという情熱、熱心さが与えられるのです。弟子たちは神様から与えられるそのエネルギーによって大胆にキリストに従い、キリストを証する人へと変えられたのです。祈りと賛美とみことばの約束を握って神様に近づきましょう。心を神様の前に開きましょう。あなたの心を聖霊に委ねましょう。大切なことは神様に向かってあなたの心が解放され自由にされていくことです。罪が示されるなら悔い改めましょう。また誰かにお祈りしてもらうことも良いことです。しかし、何よりもあなた自身の唇を開いて神様に求めましょう。唇を神様に委ねる時、神様があなたの舌をコントロールして下さり、神様が与えて下さる言葉(異言)で自由に祈らせてくださるでしょう。

聖霊のバプテスマを求めて心を合わせて祈る時間を持ちましょう。(霊が解放される雰囲気を作るように導きましょう。神様をほめたたえ求める賛美を何曲かしてもよいでしょう。できるだけ声に出して自由に祈るように導きましょう。)